

氏名	寺尾正子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博乙第4450号
学位授与の日付	平成27年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)

学位論文題目	Serum Oxidative/anti-oxidative Stress Balance Is Dysregulated in Potentially Pulmonary Hypertensive Patients with Liver Cirrhosis : A Case Control Study (肺高血圧を伴う肝硬変患者において酸化ストレス・抗酸化力のバランスは障害されている：症例対照研究)
--------	---

論文審査委員	教授 森松 博史 教授 大塚 文男 准教授 白川 靖博
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

肝硬変に合併する心肺症候として肺内シャントを基礎に肺泡気-動脈血酸素分圧較差 (AaDO₂)の開大を呈す肝肺症候群 (HPS) と、肺動脈線維化を伴う門脈肺高血圧症 (POPH) が知られている。その病態にはエンドセリン・炎症性サイトカインやフリーラジカルなどが影響していると想定されているが、HPS と POPH における酸化ストレスバランスは、まだ十分には明らかにされていない。本研究では潜在的 HPS と潜在的 POPH 患者における、酸化ストレス/抗酸化ストレスバランスを酸化ストレスマーカーROM と抗酸化力マーカーOXY により測定し、血管機能や NO 経路活性化との関連について検討を行った。潜在的 POPH では抗酸化力 OXY が低値で、ROM/OXY バランスと血管内皮障害を反映する内因性 NO 合成酵素阻害物質 (ADMA) が高値を示したことより、酸化ストレスが強く、抗酸化力が弱いといった酸化ストレスバランスの悪化がみられるとともに、血管内皮障害が強い可能性が示された。以上のことより、潜在的 POPH 進行対策に酸化ストレスに対する介入が有用である可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、肝硬変に伴う肝肺症候群と門脈肺高血圧症の病態に酸化ストレスが影響していることを示した論文である。特に門脈肺高血圧症患者でより酸化ストレスが強いという所見は今後の新しい治療法・予防法の開発に役立つ可能性があり、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。